機動戦士ガンダムOO―対話の先にあるもの―

MONSU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動戦士ガンダムＯＯ―対話の先にあるもの―

【Ｎコード】

Ｎ３３７９Ｘ

【作者名】

ＭＯＮＳＵ

【あらすじ】

機動戦士ガンダムＯＯ―Ａ　ｗａｋｅｎｉｎｇ　ｏｆ　ｔｈｅ　Ｔｒａｉｌｂｌａｚｅｒ―の最後のシーンからスタート。自分的アレンジ加わってます。刹那達がＥＬＳの母星に行った後の刹那とティエリアの話を主に書きます。

消える……そして……（前書き）

プロローグ―消える……そして……

一話目は、機動戦士ガンダムＯＯ―Ａ　ｗａｋｅｎｉｎｇ　ｏｆ　ｔｈｅ　Ｔｒａｉｌｂｌａｚｅｒ―のラストシーンからスタートです。

オリジナル要素多いですが……

消える……そして……

刹那「ＥＬＳの母星に行く！！」

その言葉を残し、刹那とティエリアは、ＯＯクアンタの量子テレポートを使い、ＥＬＳの母星へ行ってしまった。

刹那達が量子テレポートをした何分か後、他のガンダムマイスターは、ガンダムが大破し、コックピットから出ていた。
プトレマイオスも大破、操舵室に残っているクルー全員が集まっていた。

スメラギ「刹那は行ったわね…」
ミレイナ「アーデさんもいるです！」
スメラギ「そうだったわね。フェルト！マイスターに通達！全員に撤退命令を。」

ミレイナ「ＥＬＳたちが、一つに集まって行くです！」
スメラギ「ＭＳ、ガンダム、戦艦、全てについていたＥＬＳも全て離れて行きま…」
スメラギ「どうしたの？フェルト…」
フェルト「花……。」
スメラギ「花がどうしたって？」
ミレイナ「花です！スゴく大きい花があるです！…しかも、ＧＮ粒子が出ているです！」

その時、通信が入った。

ハレルヤ「スメラギさん」
スメラギ「ハレルヤ！？無事だったのね！！」
ハレルヤ「僕が死ぬ訳ないじゃないですか！…それより、僕とマリーの脳量子波に訴えられた言葉がありました！…刹那達から、「未来は頼んだ」と…」
スメラギ「まったく……あの子達は……」
フェルト「刹那…」
フェルトは嬉しそうに言った…その時、ミレイナが動いた。
ミレイナ「グレイスさんが嬉しそうです！！」
フェルト「そんなこと……」
顔を真っ赤にさせたままフェルトは否定した。
ミレイナ「グレイスさんが照れてるです！！」

スメラギ「きれいな花ね…」
悲しげにスメラギは話す。
フェルト「そんな悲しげに見つめてどうしたんですか？」
スメラギ「私は……いえ……私達は、この花を見るために生きて来たのかしら……この花が出来るまでに、どれだけの人類が死んでいったのか……と思ってね…」
そのまま泣き崩れるスメラギであった…

消える……そして……（後書き）

ついに、ＥＬＳとの対話を果たした刹那とティエリアの二人。

だが、その背後に忍び寄る一機のＭＳが……

次回　復活の仮面

復活の仮面（前書き）

短いです…

気持ち的には長かったんだけどなぁ～

まぁ～気にせず見てください！

復活の仮面

話しは、量子テレポート前の刹那とティエリアに戻る。

「ＥＬＳの母星へ行く！」
そう言って、ＧＮソードビットをリング状に展開、量子ゲートを形成し量子テレポートを行った。
量子テレポートには、２０分かかった。何故なら、何万光年もさきに行くのだから。（でも２０分！）
量子テレポート中に、ある会話が行われていた。
ティエリア「刹那」
刹那「どうした」
ティエリア「純粋種のイノベイターになってから君は、僕達にはわからない生き方をしてきた」
刹那「すまない…」
ティエリア「初めて君にあった時に、誰が君をイノベイターになると思うか？君は、初ミッションの時、ティエレンの集団を武装解除では無く、破壊した。それが今は、ガンダムを対話の為に使うと言うまでに成長している。」
刹那「長いな」
ティエリア「すまない」

そうこうしている内に、量子テレポート完了。

ピピッ！！

センサーに反応あり！

ティエリア「刹那！熱源反応が！？」
刹那「わかってい…る」
ティエリア「どうした刹那」
刹那「ブレイブ！？」
ティエリア「ブレイブだと！？」

その時…通信が入った。

「私は、グラハムエーカーいや…ハム仮面だ！ガンダム！貴様に一騎討ちを所望する！このＥＬＳブレイブで！」

なぜ彼が生きているのか…本物なのか…本物ならば、何故また戦いを生むのか…

復活の仮面（後書き）

何故か生きているグラハムエーカー
それに困惑する刹那とティエリア。
そんな時にまたもや熱源反応を見つける…

次回
一瞬の奇跡

一瞬の奇跡（前書き）

前回現れたブレイブ

その前に立つダブルオークアンタ

さらに…

一瞬の奇跡

ハム仮面「あの時の少年だろ？私に生きる為に戦えと言った！」
刹那「やはりハム仮面か！何故貴様が生きている！」
ハム仮面「私はブレイブをオーバーヒートさせ、突撃し、爆破が起きた…だが、私は生きていた。両足は無かったが…」
ティエリア「両足が無いのに何故ブレイブに乗れる！？しかも、何故ＥＬＳブレイブ！」
ハム仮面「教えてやろう！私は、両足を無くした。その後、ＥＬＳ達に私の武士道が響いたのか、私の足になってくれ、ブレイブまで作ってくれた。」

刹那「だからと言ってまた戦うのか！」
ハム仮面「決着をつける！このグラハムエーカーが！」
そう叫び、ハム仮面…もとい、グラハムエーカーは、ＧＮビームサーベル…いや、ＥＬＳブレイブだから、ＧＮＥＬＳサーベルとでも呼んでおこう。グラハムエーカーはＧＮＥＬＳサーベルを振り上げた。
普段のダブルオークアンタならブレイブ一機、もちろんグラハムエーカーだろうと余裕だが、対話のさいにクアンタムバースト（トランザムバーストによる意識共有の範囲・効果をアップさせたもの）を使った為、装甲がほとんどパージされおり、戦闘能力は低下、ブレイブ一機より、性能が低くなってしまっている…が、間一髪よけた。
装甲がパージされたために軽くなり、動きが速くなっていた。
ティエリア「ここは、早めに離脱し、ＥＬＳの母星へ！」

刹那「分かっている…だが、あのブレイブから逃げれるのか…」
グラハム「少年！そんな機体で私に背を向けるつもりか！」
そういい放ち、グラハムはＧＮミサイル…いや、ＥＬＳミサイルを放った…

ギリギリのところでＧＮソードビットをリング状に展開しＧＮフィールドを展開、ダメージを受けずに済んだ。

刹那「トランザムで突破する！」
ティエリア「ダメだ！今のクアンタでトランザムをしたら、トランザム終了後にＧＮコンデンサーが壊れてしまう！！ＥＬＳの母星での対話が出来なくなる！」

刹那「どうすれ…ば…！？」
ティエリア「！？」

その時…また…一筋の光が…

刹那「リボーンズガンダム！？」
そう…あのリボーンズガンダムだ…しかも…ＥＬＳ型である…さしずめ、リボーンズＥＬＳとでも呼ぼう。
ティエリア「何故リボーンズＥＬＳが存在するかは後にして、２対１はきついぞ！」と、リボーンズＥＬＳにＧＮソードを向けたその時だった…

？？？？「やめてくれよ。久しぶりの再会だぜ？刹那、ティエリア」
ティエリア「どうして君が…」

？？？？「どうしてって言ってもな～。知らない。それよりライルは元気か？」
刹那「どうして、それを知っている！」
？？？？「ＥＬＳから、何かと聴いていてね。」
刹那「お前は誰だ！何故ライルを知っている！」？？？？「もしかして…まだ気づいて無いのか？相変わらずだなｗｗｗ」
ティエリア「イノベイターなのに、わからないのか？」
ニール「俺だよ。ニールだ。初代ロックオン・ストラトスだ。」
刹那「生きていたのか！しかし、何故その機体に！？」
ロックオン「知らねぇよ。目が覚めたら、リボーンズＥＬＳに乗ってたんだ…しかも右足と右腕がＥＬＳ化してるしな。なんかイノベイターだしさ」
刹那「ロックオンも、変われたんだな」
そんな話をしていると…

グラハム「私を忘れて、何を話している！！貴様らは、私が倒す！」
そういい放ち、ブレイブのＧＮビームサーベルで高速で振りかかって来た。

ニール「させるか！」
その声と同時に、ブレイブのビームサーベルは吹き飛んだ。
ティエリア「君の狙い撃ちは、やはり正確だな」
ニール「お？ティエリアも、誉めれる様になったか？」
ティエリア「君がいない間に色々あってな…」

グラハム「こっちには、まだ手はある！」
刹那「そんな物は無い！！」
そう言って、刹那はＧＮソードを振り上げ、ブレイブを一刀両断した。
グラハム「そんな……次の一手を打つ前に仕掛けてくるとは……無粋な……ブシドーに違反す…る…」

男は散った…その名はグラハムエーカー…幾多のガンダムという戦場を駆け抜けて来た男。

ティエリア「強い男だった…」
刹那「ああ…」
ニール「ただの変態だったけどな…」

一瞬の奇跡（後書き）

突如現れたリボーンズＥＬＳ

コックピットに乗っていたのは、死んだはずだった、初代ロックオン・ストラトスのニール・ディランディだった…

ニールの活躍により、グラハムエーカーは倒された…

次回

母星での対話

母星での対話（前書き）

グラハムエーカーを倒した刹那・Ｆ・セイエイとニール・ディランディ。

ＥＬＳのもとへ急ぐ……。

母星での対話

グラハム、いや…ハム仮面を倒した、ダブルオークアンタとリボーンズＥＬＳ。
両機は、ＥＬＳの母星に向かった。

クアンタとリボーンズは、ＥＬＳの母星へたどり着いた。

刹那「チョリース！ＥＬＳ～♪刹那だけど？星大丈夫？てか、ウケる！」
ティエリア「刹那！疑似人格タイプＲ－３５になっているぞ！」
刹那「ハッ！すまない…たまに勝手に変わってしまうんだ…」
ティエリア「あんなことが、あったんだからな……。」
刹那「ああ…」
ニール「あんなこと？どんなことだ？何なんだ？疑似人格タイプＲ－３５って…」
ティエリア「戦況オペレーターにミレイナと言う女性がいるんだ…」
ニール「それで？」
ティエリア「君がいなくなったあと、４年間アレルヤが新政権に幽閉されて、助け出した。その後、いきなりイアンが、仮想ミッションをするとか言ってきたので、僕たちは受けた。」
刹那「そのミッションをミレイナが作って、そこで…やった疑似人格だ…」
ニール「そういや～始めの時の潜入ミッションでもやってたな…忘れてたぜ」

刹那「ああ…そうだった…。」
ティエリア「……ＥＬＳとの対話に入ろう…」

刹那「了解…」

ティエリア「刹那。クアンタムバースト発動だ！」
刹那「了解。クアンタムバースト発動！！！！」

ギュイーン！キーーーーーーーーーン！

ダブルオークアンタのクアンタムバーストが発動。

刹那「生きる！俺達は生きる！世界を歪ませたのが俺達なら、俺達が世界の歪みを正し、未来を切り開く！」

ティエリア「ニール！まわりの護衛は頼んだ！」
ニール「了・解。でも…あいつらと、話すには時間がかかるぜ？」
ティエリア「分かった。刹那、ＥＬＳの対話中にいらない情報はベーダに流せ！」
刹那「了解。」
そして、ＥＬＳと刹那の対話が始まる……。

刹那「うわーーーーーーーーーーーーー！！！！！！！！！！！！！！」
ニール「……な！……つな……刹那！！大丈夫か！」
刹那「なんとか……大丈夫だ」

ティエリア「話している暇は無い！対話を早く終わらせ無いと…クアンタムバーストが切れてしまう！」

刹那「すまない…」

刹那「う…グハッ！…お……お前達は……地球に…何をしに来たんだ……」

ＥＬＳ「……」

刹那「なんだと！！」

ティエリア「どうした！刹那！」

刹那は対話を中止した。

刹那「言っても良いのか？」

ティエリア「ああ」

刹那「地球には、カワイイ女の子を求めて来たらしい……」

ロックオン「またまた～嘘が上手くなったかぁ？」

刹那「本当だ……」

ロックオン「マジかよ（ー＿ー；）それだけの理由でか？（；´Д`）」

刹那「後は、母星が消滅しそうだかららしい……だから地球へ……」

ロックオン「絶対そっちが理由だろ……」
ティエリア「ああ……絶対な」
刹那「対話を再開する」

数分後……

刹那「ハァーハァーハァーハァー……終わった。」
ティエリア「結果は！？」
刹那「ああ……」
ロックオン「また、変なこと言うんじゃ無いだろうな？」
刹那「ＥＬＳ達と俺が一体になること……それと、新たな星に変わる物を用意してくれと」
ロックオン「それで、あては有るのか？」
刹那「この花で良いそうだ」
ティエリア「良いのか？その花は、フェルトにもらった……」
刹那「いいんだ……」

刹那はコックピットのハッチを開け、花を一体？のＥＬＳに吸収させ、皆が戦っている所に向かわせた。
その後、コックピットから降り、体を大の字に広げ、脳量子波でＥＬＳ達に伝えた。

刹那『俺と、お前達で１つの生命体……いや、１つの命を作ろう。』

そう言い放った時、ＥＬＳが刹那を包んだ。

ロックオン「刹那！！」

ティエリア「刹那！！」

クアンタもＥＬＳ達に包まれた。

そこには装甲がパージされたハズのクアンタがいるはずだが、新たな装甲がついていた。

ロックオン「おいおい（；´д｀）マジかよ……おい！ティエリア！どうなった！」

ティエリア「……」

ロックオン「ティエリア！応答しろ！」

ティエリア「大丈夫だロックオン。心配するな。それよりも問題は刹那の方だ。」

ティエリアに言われたロックオンは、さっきまで、刹那がＥＬＳに包まれていた方向を見たが、そこには、何もなかった……ただ１つ

を除いて……。

母星での対話（後書き）

ＥＬＳ達と繋がったダブルオークアンタ。
ＥＬＳ達に囲まれた、刹那・Ｆ・セイエイ。
その頃、ＥＬＳ達と交戦していたソレスタルビーイング達は……。

次回
花開く時

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3379x/

機動戦士ガンダムＯＯ―対話の先にあるもの―

2012年1月10日19時50分発行